



ケアリンピック武蔵野2022 プログラム・抄録集

日程：2022年11月19日（土）

会場：武蔵野スイングホール

主催：ケアリンピック武蔵野2022実行委員会

〈 目 次 〉

ご挨拶	P. 2
開催概要	P. 4
主催者概要	P. 5
プログラム	P. 6
講演会	P. 7
演題発表抄録集	P. 8
武蔵野市×杏林大学vol.2 ～人と人がつながる武蔵野の介護～	P. 15
武蔵野市事業者連絡会紹介	P. 17
協力企業・事業者一覧	P. 19

ケアリンピック武蔵野2022
アンケートにご協力をお願いします。

回答フォームはこちら



ご挨拶



武蔵野市長 松下 玲子

日頃より、武蔵野市の高齢者支援施策ならびに介護保険事業にご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

また、日々感染症対策を講じながら、現場で懸命にご尽力されている介護・看護関係者の皆さまや、高齢者の日常生活を支えるため、いきいきサロンやテンミリオンハウス、レモンキャブ事業などのサービスの提供に従事されている方々など、私たちの暮らしを守るすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

『ケアリンピック武蔵野』は、キーワード「広げよう！まちぐるみの支え合い」を掲げて7回目の開催となりました。人材確保に寄与するという目的に加え、今回のテーマ「人とのつながりがもつ力」を発揮されている市民を含めた地域の全ての関係者が目的を共有し一体となることにより、文字どおり本市の「まちぐるみの支え合い」を象徴する取組みの場となっています。

令和3年度から令和5年度までを計画期間とする「武蔵野市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画」では、「まちぐるみの支え合いの仕組みづくり」に向けて、いつまでもいきいきと健康に、ひとり暮らしでも、認知症になっても、中・重度の要介護状態になっても、誰もが住み慣れた地域で生活を継続できるための取組みを進めています。

本市では、高齢者を支える人材の確保・育成が大きな課題のひとつと認識しており、武蔵野市地域包括ケア人材育成センターを設置し、総合的な人材確保・養成を行っております。また、潜在的な有資格者の再就職や福祉分野への新たな就職に対する支援策として「武蔵野市介護職・看護職R eスタート支援金事業」を開始し、市内で働く介護職等の人材の発掘・確保に取り組むとともに、市内で働く介護職等の定着支援を行っております。今後も、介護現場がより働きやすくなるよう、あらゆる取組みを検討してまいります。

本事業の開催に向け、ご多忙な中、準備を進めていただいた実行委員会の皆さまや、ご協力いただいた関係各機関、事業者等の皆さまに心から感謝申し上げますとともに、この『ケアリンピック武蔵野2022』が、本市における「まちぐるみの支え合いの仕組みづくり」の更なる推進の一助となることを、大いに期待しております。



ケアオリンピック武蔵野2022

実行委員長 **小島 直彦**

(武蔵野市介護老人福祉施設長会)

『ケアオリンピック武蔵野2022』開催にあたり

ケアオリンピック武蔵野は2015年から開催し本年で7回目となりました。

2020年新型コロナウイルス感染症の国内発生から2年以上が経過していますが、いまだ収束したとはいえない状況が続いています。また今年も、これまでの波をはるかに上回る爆発的な勢いで感染が拡大した「第7波」の中、実行委員の皆様と開催に向けて準備を進めて参りましたが、特にテーマの選定が難航しました。様々な提案がある中、まだまだ先が見えないコロナ禍の今だからこそ『つながり』を大事にしたいとの意見が多数あがりました。

日常生活において、自分自身について考えるとき、新しい挑戦をするとき、何か困難を乗り越えようとするときなど、人生のあらゆる場面において、常に人は他者とつながり、助け合って生きています。とりわけ、コロナ禍において、就職など様々な問題に直面する場合、「人とのつながり」は自身だけではなく社会的な成長を遂げていく上で大きな影響を与える要素といえます。そのような思いから、今年のテーマは『人とのつながりがもつ力』となりました。つながりが持つ力と介護の魅力を一緒に感じていただければと思います。

ケアオリンピック武蔵野2022「広げよう!まちぐるみの支え合い」では、『人とのつながりがもつ力』のテーマのもとで講演会、演題発表、杏林大学との連携事業「武蔵野市×杏林大学 vol.2～人と人がつながる武蔵野の介護」の3つのプログラムを実施します。

講演会では、介護の仕事にやりがいや誇りを持ち、介護だけでなく、仕事の範囲を超えたつながりの重要性を感じていただける機会となることでしょうか。

また、演題発表では、事前に募集した市内6団体から、介護の専門職として、実践事例や研究結果の提言を行います。多職種連携、多職種相互理解や専門職のさらなる研さんにも繋がると思います。

杏林大学との連携事業では、今年も杏林大学の学生が動画を作成し、『人と人がつながる武蔵野の介護』のサブテーマのもと、介護の魅力を学生の視点でお伝えします。杏林大学総合政策部木暮健太郎教授をはじめ学生の皆様、本当にありがとうございました。

最後になりましたが、昨年に引き続きご協力をいただきました各関連団体の皆様、また、夜遅くまでご尽力いただきました実行委員会の皆様、武蔵野市健康福祉部の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。この活動が武蔵野市の地域包括ケアシステムが進展する一助になりますことを祈念しまして、ご挨拶に代えさせていただきます。

開催概要

- 名称：ケアリンピック武蔵野2022 広げよう!まちぐるみの支え合い～人とのつながりがもつ力～
- 目的：永年介護現場で市民生活を支え続けた介護職員等が、武蔵野市の地域としての目標に沿った先進的な取組みを紹介し、互いに研鑽し、称賛する場としてケアリンピック武蔵野2022を開催します。武蔵野市版地域包括ケアシステム“まちぐるみの支え合いの仕組みづくり”に向けて、介護や看護に従事する人たちが誇りとやりがいをもって働きつづけられるように、人材確保の推進に寄与することを目的とします。
- 日時：令和4年11月19日(土) 午前10時から午後1時30分まで
- 会場：武蔵野スイングホール(武蔵野市境2-14-1)
オンラインを併用します。

オンライン配信 
- 参加対象：武蔵野市内の介護及び看護等事業者、介護等に従事する方、一般市民、学生
- 参加費：無料
- プログラム概要：
 - 講演会
 - 演題発表 / 審査表彰を実施
 - 武蔵野市×杏林大学 vol.2～人と人がつながる武蔵野の介護～
- 主催：ケアリンピック武蔵野2022実行委員会
- 共催：武蔵野市
- 後援：一般社団法人武蔵野市医師会、公益社団法人東京都武蔵野市歯科医師会、一般社団法人武蔵野市薬剤師会、公益社団法人東京都柔道整復師会武蔵野支部武蔵野地区、武蔵野赤十字病院、公益財団法人武蔵野市福祉公社、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センター、社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会、公益財団法人武蔵野健康づくり事業団、社会福祉法人武蔵野
- 協力：武蔵野大学、国際医療福祉大学、杏林大学、武蔵野市居宅介護支援事業者連絡協議会、武蔵野市訪問介護事業者連絡会議、武蔵野市訪問看護・訪問リハビリテーション事業者連絡会議、武蔵野市通所介護・通所リハビリテーション事業者連絡会議、武蔵野市介護老人福祉施設長会、一般社団法人武蔵野介護予防研究会、武蔵野市福祉用具事業者連絡会議、武蔵野市PT・OT・ST協議会、介護保険事業者 他

主催者概要

■実行委員長

小島 直彦 (介護老人福祉施設長会)

■実行委員

<講演会担当>

林 純一郎 (社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会) <副実行委員長・担当リーダー>

長尾 琴音 (在宅介護・地域包括支援センター)

田島 雅子 (公益財団法人武蔵野市福祉公社)

小木曾 義久 (公益社団法人武蔵野市シルバー人材センター)

<演題発表担当>

賀川 真美 (社会福祉法人武蔵野) <副実行委員長・担当リーダー>

檜崎 真由美 (訪問看護・訪問リハビリテーション事業者連絡会議)

大森 美千代 (一般社団法人武蔵野介護予防研究会)

杉浦 宏行 (公益財団法人武蔵野健康づくり事業団)

<武蔵野市×杏林大学vol.2～人と人がつながる武蔵野の介護～ (杏林大学発表) 担当>

松本 晃知 (通所介護・通所リハビリテーション事業者連絡会議) <副実行委員長・担当リーダー>

渡部 初恵 (居宅介護支援事業者連絡協議会)

加藤 有実 (訪問介護事業者連絡会議)

小嶋 敏之 (特定施設入居者生活介護)



■事務局

山田 剛 (健康福祉部長)

小久保 渉 (健康福祉部高齢者支援課長)

長坂 朋子 (健康福祉部高齢者支援課相談支援担当課長)

増田 美照 (健康福祉部高齢者支援課)

河村 理佐 (健康福祉部高齢者支援課)

増渕 有紀 (健康福祉部高齢者支援課)

菊池 智大 (健康福祉部高齢者支援課)

金丸 絵里 (健康福祉部地域支援課)



プログラム

ケアリニック武蔵野2022タイムスケジュール

◆日時：令和4年11月19日（土） 午前10時から午後1時30分まで

◆場所：武蔵野スイングホール／2階スイングホール

※オンライン配信



（市ホームページ）

◆ 内容（予定時間）

午前10時

開会式：開会宣言

午前10時15分から11時15分まで

講演会

午前11時15分から午後0時30分まで

演題発表

午後0時30分から1時15分まで

武蔵野市×杏林大学～vol.2
～人と人がつながる武蔵野の介護～

午後1時15分から1時30分まで

演題発表 表彰式・閉会式

「つながり」でひらく介護の可能性

あきもと か あい
講師 秋本 可愛 氏



■ 経歴

株式会社Blanket 代表取締役 KAIGO LEADERS 発起人

平成2年生まれ、山口県出身。

大学時代に、介護現場でのアルバイトを通し「人生のおわりは必ずしも幸せではない」現状に課題意識を抱き、2013年(株)Join for Kaigo (現、(株)Blanket) 設立。

「全ての人希望を語れる社会」を目指し介護・福祉事業者に特化した採用・育成支援事業「KAIGO HR」を運営。日本最大級の介護に志を持つ若者コミュニティ「KAIGO LEADERS」発起人。#ケアワーカーをケアしよう発起人。Yahoo!ニュース公式コメンテーター。2021年よりNHK中央放送番組審議会委員に就任。2022年より厚生労働省「介護のしごと魅力発信等事業：事業間連携等事業」企画委員就任。

受賞歴

第10回若者力大賞受賞、第11回ロハスデザイン大賞2016ヒト部門準大賞受賞、Asia Pacific Eldercare Innovation Awards 2021 INNOVATION OF THE YEAR - CAREGIVER MODEL 部門にて最優秀賞受賞。

演題発表抄録集

■演題発表 審査委員

国際医療福祉大学生涯学習センター 齋藤 恭子 氏

日本赤十字武蔵野女子短期大学看護科・専攻科卒業。

国際医療福祉大学大学院医療経営管理分野医療経営戦略コース医療経営学修士。

武蔵野赤十字病院を経て、令和3年より現職。

武蔵野大学人間科学部社会福祉学科教授 渡邊 浩文 氏

日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。

社会福祉法人 浴風会 認知症介護研究・研修センター研究主幹等を経て、平成25年より現職。

■演題一覧（口演のみ） 午前11時15分から～午後0時30分まで

	テーマ	事業者	座長
1	『私にもできる!!』 ～業務改善による対話の時間を活かした夏まつり～	武蔵野市立高齢者総合センター デイサービスセンター	齋藤氏
2	日常生活動作に寄り添った個別機能訓練の取り組み ～いつまでも私らしくいたい～	武蔵野市立北町高齢者センター コミュニティケアサロン	
3	笑って脳活ふまねっと ～ふまねっと運動で楽しく注意力・集中力・記憶力の低下をふせぎましょう。 難しいことにも楽しみながら挑戦することでお仲間との交流も深まります。～	ナースケアたんぼぼの家	
4	緊急入居への対応について ～さまざまな事情により、急に在宅生活が困難になった方の迅速な受入れ～	シルバーシティ武蔵野	渡邊氏
5	ケアリンピックからつなげる武蔵野市介護事業者の輪 ～ケアリンピックがきっかけでつながった2事業者の事例報告～	武蔵野介護予防研究会	
6	経験や技能を活かして地域とつながれる新しいデイサービス ～その人らしく輝くためにできる支援～	WorkshopRNC	

■演題発表表彰式 午後1時15分から1時30分まで

口演1.

『私にもできる!!』

～業務改善による対話の時間を活かした夏まつり～

種 別:通所介護

発表者:武蔵野市立高齢者総合センターデイサービスセンター 北島 由理、谷口 裕美

【目的】

利用者との対話時間の確保とその時間を活かし、感染症制限下でもみんなが楽しめる「夏まつり」の実施を目指した。

【具体的な取組み】

■土曜日業務見直し(生産性向上)

昨年度、介護現場改革促進等事業の生産性向上セミナーに参加した経験を活用し取り組んだ。

- ①30分毎の業務調査を実施、表にして可視化。
- ②表を用いて話し合い、生産性の高い業務体制を設定。利用者との対話時間の確保を目指した。
- ③②の業務体制を全職員(パート職員含む)に表で示しながら、時間の活用方法と目的を丁寧に説明。実施後も意見を募り調整した。

■夏まつり

- ①実行委員、出し物(盆踊り・神輿・輪投げ・射的・釣りゲーム・ヨーヨー・ピアガーデン)、装飾(風車・お面)に取組むことを利用者と話し合い決定した。
- ②利用者個々に、夏まつり本番と準備段階でやりたい事を決め、前向きになれない利用者に対しても対話を続けた。
- ③理学療法士は柔軟性と体力維持向上を目的に太鼓や掛け声を含んだ「盆踊り体操」を考案。動画を制作し、盆踊りの練習を兼ね実施した。
- ④既存の神輿を利用者と共に修復し、ユニバーサルデザインに進化させた。
- ⑤夏まつりのディスプレイを高齢者総合センター施設正面入口展示スペースに掲示し、近隣に活動を発信した。

【結果】

■土曜日業務見直し(生産性向上)

表を用いて業務体制を可視化したことにより「ムリ・ムダ・ムラ」の洗い出しができた。これにより、目指すべき業務体制を設定し、利用者との対話の時間を確保することができた。

■夏まつり

職員の企画を実施するだけでなく、利用者を巻き込んで準備を進めたことで夏まつりを心待ちにして前向きに参加する利用者が格段に増加した。当日は自身のやりたい事を叶え、やり切った表情で満面の笑みを浮かべ「〇〇ができた!!」と周囲の利用者と語り合う姿がみられ達成感を味わっていた。また、家庭でも話題になっていた様子が伺えた。職員も支援方法を工夫し、利用者のやる気を後押しできたことで支援の喜びや仕事のやりがいを感じる事ができた。

【考察】

「夏まつりで〇〇をやる」への支援は、利用者自身のやりたい事を見出し、支援方法を考案し、利用者と共に実施するという「小さな自己決定と自己実現への支援」に結びつけることができた。これは業務体制の見直しで利用者との対話を充分に行える時間を確保し、信頼関係を築くことができたからであると考察できる。この小さな成功体験の積み重ねが、今後の確かな支援へ実を結ぶと確信している。

口演2.

日常生活動作に寄り添った個別機能訓練の取り組み ～いつまでも私らしくいたい～

種別：通所介護

発表者：武蔵野市立北町高齢者センターコミュニティーケアサロン 看護師、介護職員 鈴木 美佐子、村上 綾香、大木 節子

【目的】

介護報酬改定を受け、令和3年度から個別機能訓練を開始した。個別機能訓練とは、利用者の身体及び生活機能の維持向上を目的として、心身の状態や生活課題に合わせて個別に計画を立てて実施するものである。

コロナ禍に伴い外出の機会が減少したことで筋力低下を自覚されている利用者が多いこと、実際に転倒された例があったこと等から個別機能訓練をどのように実施するべきか考えた。その取り組み内容と成果を紹介する。

【具体的な取り組み】

①実施対象者

利用登録者は、要支援1から要介護5の54名で、要介護1、2の方が約8割。ほとんどの方がADLは自立されている。そのうち、訓練を実施しているのは約8割ほどである。

②実施計画作成

当初より、機能訓練サポートシステムを使用し、個別機能訓練計画書や日々のスケジュールリング、実施記録を個別に作成した。訓練内容として外出・室内・入浴・トイレ動作の4項目のなかから、各利用者に適した訓練を選択し、計画書を作成。そして、3か月ごとのアセスメントにて計画書の見直しを行い、居宅訪問の際には居宅状況の変化や自宅の生活に変化はないか等を本人・ご家族から聞き取りをして、利用者の状況把握に努めた。また毎月のモニタリングを実施し、スタッフ間の情報共有に努めた。

③訓練内容

月曜～金曜日に1グループ5名以下で、20分/回、1日4グループで計20名/日の方に機能訓練指導員（看護師）と介護職員の2人が実施した。

④今年度の取り組み

昨年度の評価結果より、適宜訓練内容を見直し、より実践的な訓練を導入した。

センター周辺と中庭の屋外歩行訓練、庭の周り、数段の階段、軽度勾配のある道のり等、より日常訓練動作として適した訓練に変更し取り組んだ。また、膝痛や腰痛のある利用者でも無理のない範囲で効果的な動作訓練へ変更した。常に利用者の状況や実施状況を評価し、より効果的な動作訓練を実施した。

【結果】

個別機能訓練開始より、一年ほど過ぎ、利用者インタビューを行ったところ、「続けることによって疲れにくくなった」、「意識して歩くようになった」、「段差で足をしっかり上げる事を意識するようになった」などの意見が聞かれた。公道や中庭を歩行することで、より日常生活に寄り添った訓練内容となったこと、また、個別に評価して、訓練内容を見直すことで、一人ひとりの生活により密着した訓練内容となり、自宅での生活にも活かされていると感じられた。

【考察】

継続して訓練を行うことで、日々の生活動作のなかの何気ないひとつの動作に、意識を向けることができるようになった。

本人・家族の意向を取り入れながら、毎月のモニタリング、3か月ごとのアセスメントを行うことで、より効果的に実施できた。

今後も実践的な訓練を実施することにより利用者の生活の維持・向上を目指し、利用者寄り添って支援していきたいと考える。

口演3.

笑って脳活ふまねっと

～ふまねっと運動で楽しく注意力・集中力・記憶力の低下をふせぎましょう。
難しいことにも楽しみながら挑戦することでお仲間との交流も深まります。～

種 別：看護小規模多機能型居宅介護

発表者：ナースケアたんぼぼの家 看護師 大島 果苗、施設長看護師 土居 なつ美 他

【目的】

ふまねっと運動をより理解し、楽しんでスタッフが丸となって関わることで利用者さんに楽しんでいただけるように取り組んだ。

【具体的な取組み】

- ①対象者：ナースケアたんぼぼの家に通う利用者と職員。
- ②取り組み方法：利用者と職員がそれぞれのレベルで難易度が高いと思われる課題に挑戦した。
- ③取り組み期間：8月～火曜日の午前中に1時間。
- ④取り組み手順：準備体操（股関節と足首中心に）、ネット準備、説明、実施、整理体操、評価。
- ⑤要した道具：ふまねっとのネット（ふまねっとレギュラー）27000円、ふまねっとインストラクターは講習を受講する必要がある（講座はオンラインでも受講可能）受講費13000円。
- ⑥活動の成果をだすためのポイント：
前向きな声かけで意欲を引き出し、簡単すぎない課題設定。
- ⑦取り組みへのバックアップ体制：
管理職中心にふまねっとインストラクターの資格をもつスタッフとプログラムを再考した。
取り組み時間中には、インストラクターのほかに、1名のスタッフが利用者近くで見守りできる体制を整えた。安全に取り組めるようサポートが必要であることをスタッフに周知した。

【結果】

ふまねっとインストラクターの資格を持つ看護師の協力のもと、職員に難易度の高い課題を設定し、密かに練習を行った。スタッフが難しい課題に挑戦する姿を利用者に一部のスタッフの取り組みを見て頂いた。

【考察】

ふまねっと運動で難易度の高めの活動に取り組むことで、普段の慣れている運動とは違う動きを安全に試行錯誤することができた。活動中にスタッフの協力を得ることができた。普段はレクリエーションとして利用者のみがふまねっと運動を行っているが、職員も行うことで職員も利用者同様に難しさを感じて失敗する姿がみられた。同じ課題に取り組む一体感が得られた。集団としてともに過ごし、介護される側、介護する側という立場の違いはそこには感じられなく、利用者も介護士も同じ人間としての姿だった。

口演4.

緊急入居への対応について

～さまざまな事情により、急に在宅生活が困難になった方の迅速な受入れ～

種 別：特定施設入居者生活介護

発表者：シルバーシティ武蔵野 ヘルパー長 森本 紳一

【目的】

一般的に有料老人ホームを利用する場合、事前の申込みに加えて、診療情報やアセスメント等の準備・審査に1週間程度を要するため、お問い合わせ当日の入居は断られてしまう傾向にあるが、弊社では即日緊急での受入れも行っている。

【具体的な取組み】

例えば、救急搬送された方が入院加療までは必要なしと診断された場合、ご本人様は帰宅することとなるが、ご自宅に介護できる方がいない、または独居のためご自宅での生活が困難という方は、その日のうちに受け入れ先を探さなくてはならず、弊社にご相談をいただくことが多い。

当ホームではご相談があると、まずご家族様や担当のケアマネジャーからご入居の理由、身体状況、発熱の有無、生活環境等を確認させていただき、受け入れ可能であれば入居時の抗原検査実施をご説明し、了承の上、ご入居いただいている。なお、コロナ蔓延期においては緊急入居の場合に限り、体調確認としておおむね一晩は居室でお過ごし頂くことを条件としている。

ご滞在中は、ご本人様の様子を適宜ご家族様や担当のケアマネジャーへ報告して情報共有に努めている。また、ご家族様の負担軽減のため、通院等の代行支援についても有償ではあるが対応している。

なお、ご相談いただいた時に当ホームが満床だった場合は、弊社全8ホームで協力し合い、その受け皿となるよう努めている。

【結果】

ご家族様からは「急なお願いにも関わらず入居させていただき、また細目に連絡をくれるので本人の様子がわかり安心できる。」等のお言葉を頂戴している。また、地域のケアマネジャーからも「いつも迅速に対応してくれて本当に助かる。」と仰っていただいている。

ご利用されたご本人様からは「思っていた老人ホームのイメージと違いとても良かった。元気になって帰っても、また会いに来ます。」とのありがたいお言葉を頂いている。当ホームで過ごした日々が良い思い出になっている事がとても嬉しく感じる。

【考察】

当ホームは、弊社の企業理念「私達のご高齢者の多様なニーズにお応えし、幅広くかつ暖かなサービスを提供することにより、心豊かな社会づくりに貢献していきます。」のもと、地域の皆様にお支え頂きながら31年間運営を続けてきた。弊社の緊急入居対応が少しでも皆様への恩返しになればと考えている。また、これがご縁となり、その多くの信頼により長期入居に繋がっている。

口演5.

ケアリンピックからつなげる武蔵野市介護事業者の輪 ～ケアリンピックがきっかけでつながった2事業者の事例報告～

種 別：介護予防機能訓練事業

発表者：(一社)武蔵野介護予防研究会 代表理事 荒井 義勝

【目的】

2015年より開催されているケアリンピック武蔵野において、当会は過去4回発表の機会をいただき、その中で「事業者間の連携の重要性」についてお話しさせていただいたことがある。介護予防事業を市内広域に普及させていくためには、事業者間の連携というものは不可欠である。昨年度おこなわれたケアリンピックにおいて、最優秀賞、審査委員特別賞を受賞した2事業者が、ケアリンピックをきっかけにつながり、お互いの事業に参加、講演をおこなうなど新たな事業者間の連携が生まれた。この事例より、ケアリンピックの可能性について再考する。尚、発表にあたり、参加者に口頭で確認し、本発表以外には使用しないこと、それにより不利益を被ることが無いことを説明し同意を得た。

【実施団体】

iki なまちかど保健室みゆうちゅある
(一社)武蔵野介護予防研究会

【具体的な取り組み】

当会は、ケアリンピック武蔵野2021において、介護予防機能訓練の活動について報告をおこなった。当会の発表を聞いた2021年最優秀賞受賞の「ikiなまちかど保健室みゆうちゅある」丹内氏よりお声かけいただき、相互交流が始まった。3月に当会がおこなった「正しく楽しく歩く会」という介護予防歩行教室についてお知らせしたところ、ikiなまちかど保健室で運動・歩行に関する講演ができないかと相談を受け、3月16日、当会より講師を派遣し「運動・歩行について」スタッフを含め20名に正しい姿勢と運動・歩行についての講演・指導をおこなった。翌週、当会「正しく、楽しく歩く会」に、ikiなまちかど保健室より、2名(丹内氏といきいきサロン参加者)参加していただいた。

【結果】

ikiなまちかど保健室みゆうちゅあるでおこなわれた講演では、「良い姿勢を保つ事の重要性が再確認できた。」「運動方法が良く分かった」などの声があった。歩行指導会では、「歩き方を教えてもらったことはなかったので正しい歩き方教えてもらえて良かった。」などの感想をいただいた。ケアリンピックの開催後、新しいつながりを作ることができ、情報交換などもできた。これによって事業の新たな可能性も生まれた。

【考察】

これまで、ケアリンピックにおいては事業所内での取り組みに関する発表が過去多数発表されてきた。しかし、事業者間の連携による活動の報告は少ない。武蔵野市では様々な種類の介護サービスが各事業者によっておこなわれている。事業者間のつながりから新しいものが生まれてくる可能性は大きい。介護予防事業において、シームレスな介護予防環境を実現していくためには、事業者間の連携は不可欠である。今後、ケアリンピックを機会に更なる事業者間の活発な連携が武蔵野市に生まれていくことを期待したい。

口演6.

経験や技能を活かして地域とつながれる新しいデイサービス ～その人らしく輝くためにできる支援～

種別：地域密着型通所介護・共生型放課後等デイサービス
発表者：WorkshopRNC 看護師 内田 愛里

【目的】

高齢者や障がい者が住み慣れた自宅や地域で「その人らしく」生きるためには、個人の身体状態や認知機能状態、趣味嗜好に寄り添ったサービスの提供が必要である。自分の役割を見つけ、経験や技能を活かし社会と繋がるデイサービスとして取り組んだ、本施設の活動を通して得られた利用者や家族からの反応と、今後のデイサービスの在り方について考察する。

【具体的な取組み】

当施設では、利用者の身体的アセスメントは勿論、趣味や特技、現役時代の仕事や経験に寄り添い、施設でその方が「できること」を共に考えサービス内容の計画を行っている。午前中の活動は、料理が得意だった方を中心にお弁当を作り一般の方へ向けて販売を行っている。午後からは利用者が講師となり、書道、絵画教室など得意なことをワークショップとして開講している。共生型の放課後等デイサービスとして医療的ケア児を含めた児童が通所するため、子どもの宿題をみたり昔の遊びを教えたりと世代や障がいを超えて共に遊び、学び、地域と繋がることのできる場所になっている。

利用者がデイサービスの中で自分の役割を見つけ、活動を通して自己肯定感を高めるためには、事前にスタッフが対象の能力を正確に把握し成功への道筋を誘導できるよう環境を整える必要がある。「身体機能障害があるけれどこの調理ならここまでサポートすれば可能」「この作業でこの方が戸惑うポイントに対し、この方法で支援をすれば可能」と施設内の専門職間で協議し計画を立てた上で、利用者が成功体験を持てるよう準備をして日々の活動に取り組んでいる。

【結果】

活動を通して利用者からは「今の自分が誰かのためになれていることが嬉しい」「活動が生きがいになっている」という声を頂いた。利用者家族からも「これまで家で鬱々とした日々を過ごしていた親が、子どもに書道を教えた楽しそうに今日の出来事を話してくれる」との言葉を頂くことができている。

【考察】

利用者の自立支援や生活意欲の向上、心身の機能維持のためには正しく対象を理解し、環境を整え、力を引き出す支援を行うことが重要だ。その上でチームケアは欠かせず、多職種や家族で情報共有を行う必要がある。そして今後はチームの輪を地域社会にも広げ、支援が必要であっても社会の中での存在意義をもてる開かれた場としてのデイサービスが新たな可能性を生み出すのではないだろうか。

武蔵野市×杏林大学vol.2 ～人と人がつながる武蔵野の介護～

武蔵野市では、令和2年1月に杏林大学と包括連携協定を締結しました。
令和3年度に引き続き、杏林大学の学生が、7つの市内介護サービス事業所を訪問しました。
取材を通して感じた介護サービス従事者の思いや介護職の魅力を、動画をもとに発表します。

杏林大学 総合政策学部 木暮 健太郎 教授より

今回、2回目となるケアリンピック武蔵野への参加となります。学生たちは、取材や撮影はもちろん、動画編集も含めてすべてが初めての経験のなか、チームで力を合わせて課題に取り組みました。このプロジェクトを通じて得られる学生たちの学びには、今後につながる大切なものが秘められていると思います。改めて、みなさまのご協力に感謝いたします。



1. レコードブック武蔵境

●動画タイトル 「まるでフィットネスジム～利用者さんの健康と笑顔のために～」

●取材先からのメッセージ

取材の熱意を感じて運動にも力が入り、ご利用様が生き生きしてました。
若い力は高齢者の健康寿命の延伸に必要だと再確認しました！

2. アライブ武蔵野御殿山

●動画タイトル 「自立支援のために寄り添う介護へ」

●取材先からのメッセージ

館内がホテルの様だと盛り上がり頂けて嬉しかったです。若いエネルギーにこちらも元気を貰えました。こちらの動画を通じて沢山の方に介護職の魅力が伝わりますと幸いです！

3. シルバーシティ武蔵野

●動画タイトル 「ユニークなイベントでみんなを笑顔に」

●取材先からのメッセージ

私たちが力を入れている四季折々のイベントは、ご入居者様の毎日の暮らしに彩りと潤いを与え、当ホームが笑顔と温もりで満たされるように、職員が一丸となって企画・実施しているものです。日常のケアやお食事、サークル活動に至るまで、ご入居者様お一人おひとりに寄り添い、心を紡ぎながらサポートさせていただいております。

4. ナースケアたんぽぽの家

●動画タイトル 「看護を届ける～たんぽぽスタイルの介護～」

●取材先からのメッセージ

動画作成ありがとうございます。笑わずには見れない動画になっています。最後までお楽しみください。

5. 公益財団法人 武蔵野市福祉公社 ホームヘルプセンター武蔵野

●動画タイトル 「訪問介護の魅力を語ろう!～“ありがとう”の喜び～」

●取材先からのメッセージ

とにかく若いパワーのある学生さん達からこちらも力をいただきました。福祉に対するイメージやヘルパー（訪問介護）の魅力をどのようにして伝えるか、皆がそれぞれの役割を持って考えている印象でした。福祉に対する気持ちは多かれ少なかれ持っている心の優しい学生でした!今後も様々なことに疑問を持ち、興味を持って学んでいって欲しいです。

6. デイサービス まんてん緑町

●動画タイトル 「当たり前のことを当たり前～利用者さんへの愛のカタチ～」

●取材先からのメッセージ

インタビューに答えながら、あらためて私たちがどのように社会に、高齢者に関わっていくべきかが見えてきたように思います。日々の仕事に追われる中で、ふと立ち止まって自分たちのことを見つめるいい機会になりました。

7. 日介センター吉祥寺

●動画タイトル 「ケアマネジャーという仕事～日介センターのケースから～」

●取材先からのメッセージ

取材をうけた時期がコロナの陽性者の多い時期で、現在はケアマネジメント業務も対面で行うことが増えています。ICTの更なる導入でコミュニケーション手段が変化していくと思いますが、相談業務の基本を大切にして様々なスキルを高めていきます。

武蔵野市事業者連絡会紹介

(※撮影時のみマスクを外しています。)



居宅介護支援事業者連絡協議会

武蔵野市居宅介護支援事業所連絡協議会は、介護保険制度下における事業の円滑な運営の実施と事業所の資質・サービスの向上を図ることを目的に、研修会や情報交換等を実施しています。また、ケアマネジャーとして専門的見地から、市の介護・医療・福祉関係の委員会等へ当会の会員を派遣して多機関との意見交換を図っています。



訪問介護事業者連絡会議

介護保険やその他制度の訪問介護に関わる事業者の連絡会です。在宅医療・介護連携推進事業の各部会に代表者が参加し、発言したり、月に1回の幹事会でも各種提言を行ったりしています。地域貢献という視点でコミュニティセンターの催しなどにも積極的に参加してきました。



訪問看護・訪問リハビリテーション事業者連絡会議

訪問看護師と訪問リハビリの専門職（作業療法士・理学療法士・言語聴覚士）が隔月に会議を開催し、サービス上の問題等について相談や最新情報の共有をしています。また武蔵野市との協議と連携、そしてサービスの質向上に関する研修も実施し、「住み慣れた地域で自分らしく生活できる」を支えていきます。



通所介護・通所リハビリテーション事業者連絡会議

武蔵野市通所介護・通所リハビリテーション事業者連絡会です。武蔵野市民が利用される通所介護、通所リハビリテーション、地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護の事業者で構成されています。2ヶ月に1度のペースで会議を開催し、各部会の報告と事業所の近況報告や事例報告、研修会の企画や運営などを実施しています。



武蔵野市PT・OT・ST協議会

武蔵野市PT・OT・ST協議会は、市内の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士で組織されたりハビリ専門職の団体です。活動内容は、研修会を開催して、我々の質の向上を図る事。専門知識を生かした市民の皆様や他分野への講習などを行って、お互いの顔の見える関係作りを目指して活動しています。



福祉用具事業者連絡会議



介護保険制度の福祉用具貸与・購入に関わる事業者の連絡会です。

現場での問題点などを、各事業者がどう取り組んで改善しているか、それぞれが案を持ち寄り、全体で共有し、最善の解決策を目指し、協議しています。市内の催し物にも積極的に協力しています。



お問合せ
→相談

福祉用具選定

商品説明
納品

契約

アフターサービス
モニタリング

引きあげ
→解約

洗浄・消毒・修理

管理・保管



・ご希望の生活は？
・お困りごとは？
・お身体の状況は？
・ご自宅の環境は？
などを踏まえて、適切な福祉用具を選定致します。



各事業者は常に利用される方の立場に立ったサービスの提供に努め、適正な指定福祉用具を提供し、より良い日常生活を送っていただけるよう支援していくことを目的としています。また、それぞれの専門分野を持ち、日々研鑽を積むことでより良いサービス提供ができるよう常に心掛けています。



介護老人福祉施設長会

武蔵野市は介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）が7カ所あります。

各施設の施設長が協議事項、報告事項、情報提供など定期的に会議を開催しています。

武蔵野市内介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

施設名	住所	電話番号	施設種類
吉祥寺ナーシングホーム	〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町2-9-2	0422-20-0869	多床室・従来型個室
ゆとりえ	〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町4-25-5	0422-72-0311	多床室・従来型個室
武蔵野館	〒180-0014 武蔵野市関前2-16-5	0422-36-7700	多床室・従来型個室
親の家	〒180-0011 武蔵野市八幡町3-4-18	0422-55-0507	多床室・従来型個室
ケアコート武蔵野	〒180-0023 武蔵野市境南町5-10-7	0422-39-0390	ユニット型個室
さくらえん	〒180-0021 武蔵野市桜堤2-8-31	0422-51-5550	ユニット型個室
とらいふ武蔵野	〒180-0014 武蔵野市関前1-2-20	0422-38-5221	ユニット型個室



協力企業・事業者一覧

株式会社ニチイ学館
 株式会社三祐産業 稲垣薬局 訪問看護ステーション
 株式会社 One Team レコードブック武蔵境
 社会福祉法人正寛会 特別養護老人ホーム ケアコート武蔵野
 株式会社太平洋シルバーサービス シルバーシティ武蔵野
 ナースケアたんぼぼの家
 WorkshopRNC
 株式会社ファーストステップ まんてん吉祥寺 まんてん緑町
 日介センター吉祥寺
 株式会社アライブメディケア アライブ武蔵野御殿山

住み慣れた街でいつまでも



公益財団法人
武蔵野市福祉公社



一般社団法人
武蔵野介護予防研究会

武蔵野市緑町1-5-15 0422(36)6123
<https://www.facebook.com/musashinokaigoyobou>



～地域社会に役立つ～
 武蔵野市桜堤ケアハウス
 特別養護老人ホームゆとりえ

社会福祉法人 武蔵野

地域の皆様に支えられ31年

介護付有料老人ホーム
シルバーシティ武蔵野



株式会社太平洋シルバーサービス



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学
 Musashino University

高齢になっても、病気や障がいがあっても
 住み慣れた地域、我が家で最期まで過ごしたいの想いを大切に…

訪問看護
多摩たんぼぼ訪問看護ステーション
 看護師の訪問で医療的ケア
 こころのケアのご支援をしています
[TEL:0422-38-9108](tel:0422-38-9108)

看護小規模多機能型居宅介護
ナースケアたんぼぼの家
 中重度の方へ、医療的ケアが厚く安心、
 通い・宿泊・訪問のトータルケアを提供
 TEL:0422-38-9107



国際医療福祉大学
 INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

住み慣れた地域で、
 住み慣れた家で暮らしたい



株式会社 日本介護センター
 TEL:03-3830-6140



杏林大学

三 鷹キャンパス 〒181-8611 三 鷹市新川6-20-2
 井の頭キャンパス 〒181-8612 三 鷹市下連雀5-4-1



ご見学歓迎！
 詳しくはWEBで



いつでも心よく、ずっと自分らしく
 アライブ武蔵野御殿山




Record book



INAGAKI GROUP

Workshop
RNC

memo



A series of horizontal dashed lines for writing, consisting of 18 lines spaced evenly down the page.

memo



A series of horizontal dashed lines spaced evenly down the page, providing a guide for writing. There are 18 dashed lines in total, creating 17 rows of writing space.

